

2019年度

小論文A

(問題)

<H31139181>

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～3 ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が開始されてから、解答用紙の所定欄に正確に丁寧に記入すること（以下の記入例参照）。所定欄以外に受験番号・氏名を書いてはならない。なお、解答用紙が複数枚ある場合には、それぞれの所定欄に記入すること。
5. 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。読みづらい数字は採点処理に支障をきたすことがあるので、注意すること。

(記入例) 58001番 ⇒

万	千	百	十	一
5	8	0	0	1

(数字見本)

0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにすること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ること。

小論文作成上の注意

1. 解答文は、所定の解答用紙におさまるように、日本語で書きなさい。
2. 句読点、記号等、および改行のために生じる余白もすべて字数に含む。また、解答用紙の字数を超えて解答してはいけない。（句読点、記号等は、必ず独立した1マスを使用する。）
3. 解答は横書きとし、楷書で左から右へと書くこと。
4. 本文中に自分の氏名を書かないこと。
5. 小論文解答用紙は汚したり、折り曲げたり、破ったりしないこと。
6. 下書きは、別に配付の下書き用紙を使用すること。試験終了後、下書き用紙は持ち帰ること。

問題 スマートフォンに関する学生と教員の会話を読んで以下の問に答えなさい。

教員：(a) 最近駅でスマートフォンを使う人をよく見かけます。他の利用客に衝突したり、プラットホームから転落したり、危ないことこの上ありません。

学生：「歩きスマホ」ですね？自分もついSNSやメールが届いていないか気になるので、駄目と分かっているのに、つい見てしまうことがあります。

教員：私が学生の頃はポケットベルという呼出装置を使って連絡を取り合っていました。最近の携帯電話の機能はパソコンと同等かそれ以上ですね。

学生：(a) 携帯電話がインターネットに接続するようになったのはいつ頃のことか、先生はご存じですか？

教員：1999年に日本最大のキャリア企業NTT docomo社が電話以外の機能としてi-modeと命名(b)されたインターネット接続機能を開始しました。このサービスの開始前くらいから携帯電話を使う人が急速に増えました(1)。その後、携帯電話は情報通信端末に位置づけられた(2)と言ってよいでしょう。

学生：スマートフォンの先駆けとなったApple社のiPhoneの発表は2007年ですから、8年も前から始まっていたんですね。

教員：よく知っていますね。(a) iPhone発表時の社長だった故スティーブ・ジョブズ氏が、最初にiPhoneを発表したときの演説を知っていますか？

学生：ジョブズ氏は素晴らしい演説をいくつも残していますね。特に2005年のスタンフォード大学の卒業式における演説が心に染み入ります。残念ながら私はiPhone発表時の演説を知りません。どんな内容ですか？

教員：キーボードのようにコマンドを文字入力するGUI (Character User Interface)に対して、GUI (Graphical User Interface)は画面上のグラフィックアイコンと、マウスやトラックパッドなどのポインティングデバイスを使って選択するので、文字入力のためにボタンやキーを操作しません。さらにスマートフォンの場合は画面に表示されたグラフィックアイコンを指で選択しますよね。ジョブズ氏は指を「生まれた時から誰もが持っている最高のポインティングデバイス」と称し、新しい情報機器の操作方法を提案した(3)と言えます。

学生：流石(c)、素晴らしい表現ですね。最近はタブレット端末なども増えて、画面を直接指で操作するのが当たり前になりましたね。私も益々(d)スマートフォンが手放せなくなります。

教員：くれぐれも歩行中にスマートフォンを使って事故に遭わない(4)くださいね。

問1 A (a) に共通して入る最もふさわしい接続詞を平仮名で書きなさい。

B 下線(b)、(c)、(d)の読み仮名を、平仮名で書きなさい。

問2 以下の文のうち、上記の会話の内容に照らし合わせて最も適切な内容のものを2つ選び、記号で答えなさい。

イ：海外ではスマートフォン販売以前はメールの送受信ができなかった

ロ：i-modeを利用したインターネット検索はとても便利だった

ハ：スマートフォンの普及によってパソコンのキーボード入力が苦手な若者が増加した

ニ：歩行中の注意不足は事故の原因になるので、歩行中のスマートフォン使用はやめるべきである

ホ：スマートフォンのおかげで、いつでもどこでも昔の友人と連絡が取れる

ヘ：スマートフォンさえ持っていれば外出中でも仕事をすることが可能である

ト：スマートフォン発売以前の携帯電話ではインターネットに接続できなかった

チ：スマートフォンでは情報を入力するのに必ずしもボタンやキーボードを押すわけではない

問3 下線(1)の内容について、関連する表に基づいてグラフで表しなさい。

問4 下線(2)のように教員が考える理由を考えて、関連する表を適切に引用しながら5行程度で説明しなさい。

問5 下線(3)のように教員が考える理由を考えて、関連する表を適切に引用しながら5行程度で説明しなさい。

問6 下線(4)について、歩行中にスマートフォンを使って事故に遭わないためにどうすればよいか、関連する表を適切に引用しながら自分の考えを10行程度で述べるとともに、自分の考えに20文字以内のタイトルをつけなさい。

表1 移動体通信（携帯電話・PHS）の
年度別人口普及率の推移（東海管内）

年度	人口普及率	年度	人口普及率
1989	0.3%	2003	71.1%
1990	0.6%	2004	74.5%
1991	1.1%	2005	75.8%
1992	1.4%	2006	79.4%
1993	1.7%	2007	83.0%
1994	3.8%	2008	84.6%
1995	10.2%	2009	86.6%
1996	23.0%	2010	90.4%
1997	32.7%	2011	95.7%
1998	40.6%	2012	100.4%
1999	49.3%	2013	104.2%
2000	58.1%	2014	106.6%
2001	63.2%	2015	108.6%
2002	67.3%	2016	108.7%

※表1の出典は下記になります。

表3 交通事故における状態別死者数の推移(人)

年	自転車 乗用中	二輪車 乗車中	自動車 乗車中	歩行中
2007	751	1,035	2,032	1,966
2008	727	991	1,729	1,745
2009	712	891	1,630	1,730
2010	668	881	1,637	1,744
2011	639	855	1,478	1,709
2012	567	790	1,430	1,642
2013	601	761	1,420	1,592
2014	540	697	1,370	1,498
2015	572	677	1,322	1,534
2016	509	684	1,338	1,361
2017	480	632	1,221	1,347

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
警察庁ウェブサイト「平成29年における交通死亡事故の
特徴等について」
<https://www.npa.go.jp/index.html>

表2 情報通信端末の世帯保有率の推移

年	パソコン	スマートフォン	タブレット
2006	80.8%	—	—
2007	85.0%	—	—
2008	85.9%	—	—
2009	87.2%	—	—
2010	83.4%	9.7%	7.2%
2011	77.4%	29.3%	8.5%
2012	75.8%	49.5%	15.3%
2013	81.7%	62.6%	21.9%
2014	78.0%	64.2%	26.3%
2015	76.8%	72.0%	33.3%

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
「移動体通信（携帯電話・PHS）の年度別人口普及率と契約数の推移」
（総務省）
(http://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/tool/tokeisiryoyou/idoutai_nenbetu.html)を加工して作成

表4 NTT 東西の公衆電話施設構成数の推移(台)

年度(末)	デジタル	アナログ	合計
2005	111,661	281,405	393,066
2006	107,752	253,067	360,819
2007	100,993	228,308	329,301
2008	96,271	210,916	307,187
2009	92,221	190,940	283,161
2010	86,526	166,249	252,775
2011	82,678	148,360	231,038
2012	79,919	130,529	210,448
2013	78,179	117,335	195,514
2014	76,755	106,900	183,655
2015	75,149	96,030	171,179
2016	68,546	92,829	161,375

※Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
「平成29年版情報通信白書 図表6-2-2-8 NTT東西における公衆電
話施設構成数の推移」（総務省）
(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc262210.html>)を加工して作成

〔以下余白〕

※表1
Web公開にあたり、著作権者の要請により出典追記しております。
「通信利用動向調査 情報通信端末の世帯保有率の推移」（総務省）
(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/statistics/statistics05a.html>)を加工して作成

小論文 A 解答用紙

<H31139181>

受験 番号	万	千	百	十	一
氏名					

(所定欄以外に番号・氏名を書いてはならない)

2019年度

小論文 A
(解 答 用 紙)

No.

1

 /

1

採 点 欄



--	--



問1

A

(a)

B

(b)

(c)

(d)

問3

問4

問5

問6・本文

問6・タイトル

[illegible]